

## 原子力および北陸新幹線に関する 提言について。

当懇話会・県経済団体連合会の川田達男会長とJA福井県五連の山田俊臣会長は、国や県の重要課題や政治情勢などについて幅広く意見交換する場を設けました。このなかで特に原子力問題と北陸新幹線問題について極めて重要という認識で一致し、広く県民の皆様にご理解いただくために、平成24年11月14日に福井市内のホテルで共同記者会見を開きました。共同で声明を発表するのは今回が初めてです。

ギ一政策については、日本の発展に必要な真の議論を行っておらず、ポピュリズム的な一貫性のない政策だと批判。原子力を柱としたLNGなどのベストミックスを政策の要とする現実的なエネルギー戦略が必要だと訴えました。

2025年度末頃に開業予定の北陸新幹線金沢―敦賀をめぐっては、2年後に開業する金沢と経済格差が生じることを懸念。早急な日本海側国土軸整備の必要性を政府が理解していないとし、13年後の開業が福井県にとって壊滅的な状況となるとして、思



共同会見を行う当懇話会・県経済団体連合会の川田会長(右)とJA福井県五連の山田俊臣会長(左)。



新聞掲載の意見広告

いきった工期短縮が不可欠であると提言しました。また、両問題により産業の空洞化、雇用問題が加速度的に起こることを懸念し、経済界での雇用問題は、農業従事者の減少と関連した問題だと述べました。



松永 和夫氏



野路 國夫氏



川田 達男会長

毎年8月、福井県勝山市を舞台に開催する「福井県経済界サマースクール」を、福井県経済団体連合会、福井県商工会議所連合会と共催で開催しました。

第6回目を迎えた今回は、これからの日本と地域の将来をテーマに掲げました。各界一流の講師陣を招いて、地域経済界をリードする企業経営者、行政幹部、大学関係者等130名が集まり、世界・日本・地域の将来について熱く議論しました。

「日本企業再生へのシナリオを探る」というテーマでの鼎談では、コマツ代表取締役社長兼CEOの野路國夫氏、経済産業省顧問・前事務次官の松永和夫氏、当懇話会の川田達男会長の三氏により、エネルギー問題と日本・企業の再生シナリオについて話し合われました。

第6回  
福井県経済界サマースクール  
(共催)  
これからの日本と地域の将来～  
「元気な日本」復活へのシナリオを探る

日時:平成24年8月21日(火)～22日(水) 1泊2日  
場所:勝山東急ハーヴェストホテル(スキージャム勝山)



左から、松永 和夫氏、野路 國夫氏、川田 達男会長。





**望月 晴文(もちつき・はるふみ)氏**  
1973年京都大学法学部卒業後、通商産業省(現経済産業省)入省。原子力安全・保安院次長、中小企業庁長官、資源エネルギー長官などを経て、平成20年7月から平成22年7月まで経済産業事務次官。現在、日本生命保険相互会社特別顧問。神奈川県出身。

## 望月晴文氏(元経済産業事務次官)特別講演会

主催:福井県環境・エネルギー懇話会 共催:福井県経済団体連合会

◎日時 平成24年4月11日(水)  
◎会場 福井商工会議所ビル コンベンションホール  
◎演題 エネルギー政策の今後～その場しのぎの政策でいいのか～  
◎参加者 261名



元経済産業事務次官の望月晴文氏を講師に迎えた講演会を、福井市商工会議所ビルで開催。約260人の参加者が集まり、みな熱心に聴講していた。

東日本大震災による福島第一原発事故を受け、2012年をエネルギー政策転換の節目と位置づけ、「エネルギー政策の今後」と題した講演会を開催しました。元経済産業事務次官である望月晴文氏を講師に招いて、会場に集まった約260人が国内のエネルギー政策について学びました。

望月氏は「文明国家の基礎は、豊かなエネルギーをたやすく手に入れて、活用できること」とし、エネルギー政策は生活の基本であると話しました。その上で、2010年に閣議決定されたエネルギー基本計画が白紙見直しとなったことについて、国の運営に問題があると批判しました。また、エネルギー政策は、安定供給・セキュリティ・経済性の3つの目標を柱に決定されるべきだと指摘しました。

一方で、望月氏は自身が策定に関わった立場から、エネルギー基本計画について背伸びした数字を掲げたと振り返りました。しかしながら、2030年の電力量の約50%を原子力、約20%を再生可能エネルギー、エネルギー自給率を40%まで向上させるという目標について、挑戦する価値はあると言及しました。

また、狙うべきベストミックスについては、原油輸入元であるイラン・イスラエル問題や、アメリカの天然ガス採掘の技術開発について触れながら、火力や原子力などのエネルギーが役割分担することが大事だと説きました。また、本当に困ったときには、セキュリティを第一に考えるべきとしました。

原子力エネルギーに関する日本の技術については、「原子力工学の人材が枯渇することは大問題だ」と危惧していました。そして、日本が高い技術を持つ原子力エネルギーを残していくことは社会的に必要という持論を展開し、福島の事故による本格的な廃炉という大きな仕事も踏まえた上で、どのような主義・主張に立っても、これから30年は人材がいないと困ると述べました。

最後に、「エネルギー問題は複雑で難しい。しかし、その重要性を語る手を惜しまず、日本の国民生活の水準の維持や発展を企図して政策に取り組むことを、政治家や行政に携わる人たちに望みたい」と話しました。

## 北畑隆生氏(元経済産業事務次官)を囲む懇談会

主催:福井県経済団体連合会、福井県環境・エネルギー懇話会

◎日時 平成24年7月20日(金)  
◎会場 ユアーズホテルフクイ 桜の間  
◎演題 LNGなどエネルギー・資源をめぐる国際情勢について  
◎参加者 24名



**北畑 隆生(きたはた・たかお)氏**  
1972年東京大学法学部卒業後、通商産業省(現経済産業省)入省。総務審議官、大臣官房長、経済産業政策局長などを経て、2006年から2008年まで経済産業事務次官。現在、財団法人世界平和研究所副理事長、株式会社神戸製鋼所社外取締役ほか。兵庫県出身。

元経済産業事務次官の北畑隆生氏を招いて、LNGなどエネルギー・資源をめぐる国際情勢に関する昼食懇談会を開催しました。

北畑氏による「LNGなどのエネルギー・資源をめぐる国際情勢について」と題した講演では、最初に原子力発電所の再稼働について、福井県の財界に対して感謝の意を述べることがから始まりました。講演の内容は、天然ガスに關しての話が中心となりました。

最初に、天然ガスは何かということ、詳しく説明していただきました。天然ガスとはメタンガスであり、ヨーロッパでは中東からパイプラインで運ぶのに対して、日本では液化しLNGタンカーで運んでいる。埋蔵量は60〜70年。CO<sub>2</sub>排出量は石炭や石油に

比べて少なく、産出地も比較的让世界に広がっているなど、天然ガスの特徴について教えていただきました。日本は世界最大のLNG輸入国ですが、輸出は石油のように中東に偏っていないため、戦争やテロに巻き込まれることなく安定したエネルギーを得られるとのことでした。その上で北畑氏は、当面は原子力が動かしづらいなかで、原子力が復活してくるまでは天然ガスでカバーせざるを得ないとの考えを示しました。

2つ目は天然ガスをめぐる情勢変化に關しての話でした。シェールガス革命により天然ガスの生産が拡大したアメリカの現状やそれにもなうガス価格の暴落について、世界最大の天然ガス産出国であるロシアがアジア諸国へのLNG輸出を計画しプロジェクトが進行しているが、その受け入れ基地が必要であるという内容でした。

日本はLNG受け入れ基地が太平洋側に集中しており、日本海側は新潟に1カ所あるだけとのことでした。しかし国家の安全保障上、日本海側にも受け入れ基地、パイプラインを整備する必要があると北畑氏は述べました。そうした観点から、福井には原子力だけでなく天然ガスエネルギーの受け入れ基地としての役割も果たしていただきたいと提起していました。





福井商工会議所ビルにて、「日本のエネルギー資源戦略について」と題し、経済産業省北海道経済産業局長の増山壽一氏による講演会を開催。約100名が参加した。



**増山 壽一(ますやま・としかず)氏**  
1985年東京大学法学部卒業後、通商産業省(現経済産業省)入省。在フランス日本大使館参事官、通商政策局欧州東アフリカ課長兼ロシア室長、資源エネルギー省庁エネルギー・新エネルギー部政策課長、独立法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)総務部長などを経て、2012年6月より現職。京都府出身。

## わかりやすいエネルギー国際情勢特別講演会

主催:福井県環境・エネルギー懇話会  
共催:福井県経済団体連合会、福井県商工会議所連合会、福井商工会議所

◎日時 平成24年7月27日(金)  
◎会場 福井商工会議所ビル コンベンションホール  
◎講師 北海道経済産業局長 増山 壽一氏  
◎演題 日本のエネルギー資源戦略について  
◎参加者 93名

LNGなどエネルギー資源をめぐる国際情勢や国内のエネルギー現状、新たなエネルギー資源の技術革新の動向などについて理解を深めるとともに、その将来展望について探るべく、経済産業省より増山壽一氏を招いての特別講演会を開催しました。

増山氏はエネルギー政策について、エネルギーのベストミックスを考え、長期的視野に立ったインフラ整備が必要とし、資源を輸入に頼る日本は、エネルギー資源の確保、創出、再利用が最大の課題であると話しました。

エネルギー問題と地球温暖化対策については、CO<sub>2</sub>排出量が金融取引対象となっている今、省エネクリンエネルギーへの転換を同時に進めることが鍵となると述べました。また、日本の優れた省エネ技術とCO<sub>2</sub>排出

量の少ないエネルギー技術をパッケージにして世界に売り込むべきとしました。再生可能エネルギー産業については極めて重要とし、スマートメーターなどの技術を軸とした日本のシェア拡大の必要性や、この分野が社会システムを変革する可能性について述べました。

また、アメリカに天然ガスの輸出規制をかける動きがあることを指摘。エネルギーを持つ者が戦略的な意図を持つと他の者は手も足も出ないため、国が前面に立って資源国との関係を結ぶ必要があるとしました。さらに、今後のエネルギー源確保に向け、時間軸を持った戦略を立て、複数のカードを持って取り組むべきとの考えを示しました。

## エネルギー特別講座

主催:福井県環境・エネルギー懇話会、敦賀商工会議所

◎日時 平成24年8月24日(金)  
◎会場 敦賀商工会議所ホール  
◎講師 JX日鉱日石エネルギー(株)取締役副社長執行役員 内田 幸雄氏  
◎演題 どうなる!これからのエネルギー  
~現在のエネルギー情勢と日本の戦略~  
◎参加者 140名



敦賀商工会議所と共催し、敦賀市内においてエネルギー特別講座を開いた。福井県出身の内田氏による講演会に、約140名が参加した。



**内田 幸雄(うちだ・ゆきお)氏**  
1973年京都大学法学部卒業後、日本鉱業株式会社入社。株式会社日鉱共石企画本部参事、株式会社ジャパンエナジー専務取締役などを経て、2012年6月より現職。福井県出身。

福井県出身の内田幸雄氏を講師に招き、エネルギー資源をめぐる国際情勢や、日本の現状と課題について講演会を行いました。

内田氏は、「二次エネルギーは輸入できず、一次エネルギーを他国から調達しなければならぬ日本の現状を指摘。政府が示した3つの選択①原発ゼロ②15%③20~25%についても言及しました。そのうち「原子力ゼロ」シナリオでは、温暖化ガス削減の中期目標を達成するため、市街地へのガソリン車乗り入れ禁止、エネルギー効率の低い製品の販売禁止、省エネ基準に達していない住宅・ビルの新規貸借禁止などの対策が必要で、「共産主義的だ」としました。また、再生可能エネルギーはコストが高く、エネルギー品質が安定しないと、太陽光発電の高い買取

価格が市場原理を歪め、安価な中国製太陽光パネル購入など、産業育成面でも疑問が残るといった認識を示しました。

エネルギー戦略については、一次エネルギーの安定的供給・国家安全保障、効率的で質の高い供給・国際競争力のある価格の維持、環境問題への対応という3つの視点が不可欠で、安全安心な供給も重視されていると述べました。一方で「リスクはゼロにならない」とし、ダメージを小さくする方策や、万一被災した場合のセーフティネットも構築し、国民の理解を得られるリスクコントロールが必須としました。そして、各エネルギーの特性を生かしたエネルギーミックスを選択することが肝要だという考えを述べました。





**山本 和尙(やまもと・かずたか)氏**  
1982年京都大学大学院医学研究科修了後、京都大学医学部で主に放射線治療を研究。福井医科大学(現福井大学医学部)助教授などを経て、1998年若狭湾エネルギー研究センター粒子線医療研究室長。その後、福井県健康福祉部技幹などを経て、2011年3月より現職。

経済産業省資源エネルギー庁受託事業  
**第13回エネルギー・環境教育セミナー**〈放射線等に関する教育職員セミナー〉

主催：経済産業省 資源エネルギー庁  
主管：福井県環境・エネルギー懇話会、公益財団法人 原子力安全研究協会 後援：福井県教育委員会

- ◎日時 平成24年11月20日(火)
- ◎場所 福井商工会議所ビル コンベンションホール・国際ホール
- ◎内容
  - 基調講演  
演題：「暮らしに役立つ放射線～がんの診断・治療の最前線～」  
講師：福井県立病院陽子線がん治療センター センター長 山本 和尙氏
  - ワークショップ(実践事例発表と意見交換)  
発表校：西浦小学校(敦賀市)、川西中学校(福井市)
  - 放射線の実験・実習  
放射線の性質を理解するための霧箱作りや測定実験  
進行：原子力安全研究協会
  - 総合講評 京都教育大学 教授 山下 宏文氏

◎参加者 県内小中高校教諭及び関係者61名

次世代を担う子どもたちがエネルギーや環境に対する関心を持ち、理解を深めていくことは重要であり、エネルギー環境教育の担い手として学校教育の果たす役割は益々高まっています。そこで福井県内を中心とする教育関係者を対象に、「エネルギー・環境教育セミナー」を実施しました。セミナーには県内の小中高校の理科教師ら合計61人が参加しました。

基調講演では、福井県立病院陽子線がん治療センターの山本和尙氏が「暮らしに役立つ放射線」がの診断・治療の最前線」と題して講演しました。まずは、放射線に対する正しい知識を持ち、正し



福井県立病院陽子線がん治療センターセンター長の山本和尙氏による基調講演の様子。陽子線による最前線のがん治療について、図やグラフを用いて分かりやすく説明された。



簡易放射線測定器「はかるくん」を用いて、鉱石などの放射線量を測定した。

用、放射線被ばくの健康への影響などについても詳しく説明しました。次に、放射線を使ったがん治療についても、図を使って紹介しました。特に、陽子線を使ったがん治療の方法や特徴について、どのような仕組みで治療を進めていくのかなどを一つひとつ解説しました。そして、陽子線治療



霧箱などを使って放射線の飛跡を観察した。

情報を得て、正しく恐れれることが大切とし、放射線・放射能の単位、セシウムやヨウ素131の影響、自然放射能などについて解説しました。また、放射線の遺伝子への作用、放射線被ばくの健康への影響などについても詳しく説明しました。

つ解説しました。そして、陽子線治療を選ぶことでどのような利点があるのか、治療による被ばくはどのような影響があるのか、日本ではどこで治療を受けることができるのかなどを説明した上で、がん治療にはリスクとベネフィットを考慮して、ベストな治療法をみつけることが大切だと訴えました。

続いて「みえる、はかる、わかる 放射線」をテーマに、実験 実習を行いました。霧箱という簡単な装置を作り、気化したアルコールを使って放射線源のモニタサイトから出る放射線の飛跡を観察する実験では、「放射線が目に見えて分かりやすく、参考になった」などの声が聞かれました。簡易放射線測定器「はかるくん」を使った実習では、塩花、ほうろ湯の花などの放射線量を測り、放射線が日常にある存在であることを確認しました。

ワークショップでは、福井市川西中学校と敦賀原発のすぐ近くにある敦賀市西浦小学校が、放射線学習の取組みの実践事例を発表しました。西浦小学校の川崎幸弘教諭からは、5～6年生の「総合的な学習の時間」を利用して、放射線についての意識調査や学校にある放射線測定器「ほうしゅせん見守り隊」の観察、放射線利用についての学習が行われたことが報告されました。川西中学校の富島修司教諭からは、福井県教育研究所で勤務していたなかで、放射線の指導をテーマに研究したことや発表がありました。

最後に京都教育大学の山下宏文教授による総合講評をもって、セミナーは閉会となりました。

**【山下先生講評要旨】**  
原発事故との関わりで放射線教育が問われていることを忘れてはならない。きちんとエネルギー選択できる知識や情報を教育が提供することが大事。山本先生の放射線治療におけるリスクとベネフィットの話は、医療に限らずエネルギーを考えるうえで極めて重要だ。事例発表は2つとも素晴らしい。放射線学習から福島の現実を考えると、より深まるのではないと思う。



総合講評を語る山下宏文氏

**山下 宏文(やました・ひろふみ)氏**  
小学校教諭を経て、1996年に京都教育大学教育学部助教授、2002年より現職。環境教育、社会科教育専門。日本エネルギー環境教育学会副会長、日本教材学会常任理事、2003年より当懇話会の環境・エネルギー教育問題懇談会座長。



敦賀市の西浦小学校、川崎幸弘教諭による事例発表の様子。



## 平田竹男氏講演会

主催：福井県環境・エネルギー懇話会 共催：福井県教育委員会

- ◎日時会場 平成24年12月11日(火) 明道中学校  
平成24年12月12日(水) 福井商業高校
- ◎演題 「国際人になるために」
- ◎講師 早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科教授 平田竹男氏  
(元資源エネルギー庁石油・天然ガス課長・元日本サッカー協会専務理事)
- ◎受講者 明道中学校 全校生徒540名、福井商業高校 全校生徒870名



明道中学校での講演会にて。「中学生の頃の夢は?」「最も大変だった仕事は?」など、生徒からは様々な質問が挙がった。

これからのグローバル社会を生き抜く国際的視野をもった人材の育成を図ることを目的に、サッカーのW杯誘致や日本女子代表(なでしこジャパン)誕生に携わった平田竹男氏を招いて、明道中学校と福井商業高校にて講演会を開催しました。

平田氏は「国際人になるために」をテーマに、スポーツの世界における国際試合の舞台裏や、勝つために何が必要なのかを話しました。そして「計画して一生懸命やったことは実現できると訴えました。

福井有数のスポーツ校である福井商業高校では、生徒からは具体的な質問が数多く飛び出しました。平田氏は「仲間を大切にしながら本番に強くなるために調整することが、国際人になるためには必要だ」と答えていました。

### 平田 竹男(ひらた・たけお)氏

1982年横浜国立大学卒業後、通商産業省(現経済産業省)入省。産業政策局サービス産業室長補佐、在ブラジル日本大使館一等書記官、資源エネルギー庁石油天然ガス課長を経て退官。サービス産業室長補佐時にはJリーグ設立、2002年W杯招致、サッカーくじの創設に携わる。2006年まで財団法人日本サッカー協会専務理事。女子サッカーの普及やなでしこジャパンの誕生に尽力。大阪府出身。



熱心にメモをとりながら聴講する受講者。

講演で高村氏は、まず、福島第一原子力発電所の事故で発生した放射性ヨウ素や放射性セシウムなどの放射性物質の単位や、放射能障害について説明を行いました。続いて外部被ばくや内部被ばくについてなど、放射線放射線被ばくとその特徴について述べました。

被ばく線量によって人体への影響がどのように違うのかを説明した後に、長崎原爆やチェルノブイリ原子力発電所事故により、人体にどのような影響があったのかを、具体的な数字や症例を示しながら報告。原爆が外部被ばくであるのに対し、原発事故は内部被ばくであり、被ばく形態の違いにより症状が違うことを説明。それらをふまえた上で、福島原発事故で何に気をつけるべきかについて話し、正しい知識で正しく注意喚起し、これまで得た経験や知識を通して福島に貢献したいと語りました。

高村氏の講演会は、小浜市でも開催されました。

## 環境・エネルギー特別講演会

主催：福井県環境・エネルギー懇話会

- ◎日時 平成24年5月22日(火)
- ◎会場 福井商工会議所ビル 会議室A・B
- ◎講師 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授 高村 昇氏
- ◎演題 長崎、チェルノブイリから福島を学ぶ～放射線被ばくと健康影響～
- ◎参加者 46名



### 高村 昇(たかむら・のぼる)氏

1997年長崎大学大学院医学研究科修了。同大学講師、准教授を経て2008年より現職。2011年より福島県放射線健康リスク管理アドバイザーも務める。チェルノブイリ原子力発電所事故後の現地での医療協力や、現地から長崎大学への留学生に対する教育支援にも携わる。長崎県出身。

## 環境・エネルギー講演 & 弦楽八重奏

主催：福井県環境・エネルギー懇話会

- ◎日時 平成24年9月27日(木)
- ◎会場 福井県立音楽堂ハーモニーホールふくい
- ◎講師 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授 高村 昇氏
- ◎演題 私たちの健康と放射線との関わり～放射線の正しい理解のために～
- ◎演奏 オークストラ・アンサンブル金沢メンバーによる弦楽八重奏
- ◎参加者 426名



バイオリンやチェロ、ビオラの弦楽八重奏によるクラシック音楽の演奏会。

環境・エネルギー講演とクラシック演奏会を組み合わせさせた講演会を、福井県立音楽堂ハーモニーホールふくいで催しました。

第一部では「私たちの健康と放射線との関わり」放射線の正しい理解のために」と題し、高村昇氏による講演を行いました。第二部では毎年恒例となっているオーケストラ・アンサンブル金沢によるクラシック演奏会を実施しました。



講演会・セミナー・イベント

望月晴文氏(元経済産業事務次官)特別講演会

◎日時 平成24年4月11日(水)
◎会場 福井商工会議所ビル コンベンションホール
◎講師 元経済産業事務次官 望月晴文氏
◎演題 エネルギー政策の今後 ～その場しのぎの政策でいいのか～
◎主催 福井県環境・エネルギー懇話会
◎共催 福井県経済団体連合会
◎参加者 261名



環境・エネルギー特別講演会

◎日時 平成24年5月22日(火)
◎会場 福井商工会議所ビル 会議室A・B
◎講師 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授 高村昇氏
◎演題 長崎、チェルノブイリから福島を学ぶ
～放射線被ばくと健康影響～
◎主催 福井県環境・エネルギー懇話会
◎参加者 46名



北畑隆生氏(元経済産業事務次官)を囲む懇談会

◎日時 平成24年7月20日(金)
◎会場 ユアーズホテルフクイ 桜の間
◎講師 元経済産業事務次官 北畑隆生氏
◎演題 LNGなどエネルギー・資源をめぐる国際情勢について
◎主催 福井県経済団体連合会、福井県環境・エネルギー懇話会
◎参加者 24名



エネルギー国際情勢特別講演会

◎日時 平成24年7月27日(金)
◎会場 福井商工会議所ビル コンベンションホール
◎講師 北海道経済産業局長 増山壽一氏
◎演題 日本のエネルギー・資源戦略について
◎主催 福井県環境・エネルギー懇話会
◎共催 福井県経済団体連合会、福井県商工会議所連合会、福井商工会議所
◎参加者 93名



環境・エネルギー特別講演会

◎日時 平成24年7月27日(金)
◎会場 サンホテルやまね(小浜市)
◎講師 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授 高村昇氏
◎演題 長崎、チェルノブイリから福島を学ぶ
～放射線被ばくと健康影響～
◎主催 若狭広域経済懇話会
◎共催 福井県環境・エネルギー懇話会、小浜商工会議所
◎参加者 130名



第6回 福井県経済界サマースクール

◎日時 平成24年8月21日(火)～22日(水)1泊2日
◎会場 勝山東急ハーヴェストホテル(スキージャム勝山)
◎テーマ これからの日本と地域の将来
～「元気な日本」復活へのシナリオを探る～
◎講師 プロゴルファー 中嶋常幸氏、キャスター 草野満代氏、前経済産業事務次官 松永和夫氏、コマツ代表取締役社長兼CEO 野路國夫氏、福井県知事 西川一誠氏、福井県経済団体連合会 川田達男会長
◎主催 福井県経済団体連合会、福井県商工会議所連合会
◎共催 福井県環境・エネルギー懇話会
◎参加者 130名



エネルギー特別講座

◎日時 平成24年8月24日(金)
◎会場 敦賀商工会議所ホール
◎講師 JX日鉱日石エネルギー株式会社 取締役副社長執行役員 内田幸雄氏
◎演題 どうなる! これからのエネルギー
～現在のエネルギー情勢と日本の戦略～
◎主催 福井県環境・エネルギー懇話会、敦賀商工会議所
◎参加者 140名



環境・エネルギー講演&弦楽八重奏

◎日時 平成24年9月27日(木)
◎会場 福井県立音楽堂ハーモニーホールふくい
◎講師 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授 高村昇氏
◎演題 私たちの健康と放射線との関わり
～放射線の正しい理解のために～
◎演奏 オーケストラ・アンサンブル金沢メンバー
◎参加者 426名



北陸技術交流テクノフェア2012

◎日時 平成24年10月18日(木)～19日(金)
◎会場 福井県産業会館、福井県生活学習館、福井県中小企業産業大学など
◎テーマ 広がる、延びる、北陸の技術
◎内容 展示会、記念講演会、技術相談、商談会、他
◎主催 技術交流テクノフェア実行委員会(当会も委員)
◎来場者 17,008名



近畿経済産業局長 小林利典氏を囲む懇談会

◎日時 平成25年2月15日(金)
◎会場 福井商工会議所ビル 特別会議室
◎講師 経済産業省 近畿経済産業局長 小林利典氏
◎演題 関西経済の活性化に向けて
◎主催 福井県環境・エネルギー懇話会、福井県経済団体連合会
◎参加者 32名



資源エネルギー庁 間宮淑夫課長を囲む勉強会

◎日時 平成25年3月1日(金)
◎会場 福井商工会議所ビル 会議室B
◎講師 経済産業省 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー一部政策課長 間宮淑夫氏
◎演題 再生可能エネルギー・省エネルギーの今後の見通しと課題
◎主催 福井県環境・エネルギー懇話会
◎参加者 16名



施設・見学会

被災地支援視察研修会

◎日時 平成24年4月24日(水)～25日(木)
◎場所 福島県相馬市、南相馬市、三春町他
◎主催 福井県環境・エネルギー懇話会
◎参加者 8名



敦賀港、日本原電3・4号機建設予定地視察研修会

◎日時 平成24年11月6日(火)
◎場所 敦賀港湾内施設、日本原電3・4号機建設予定地
◎主催 福井県経済団体連合会、福井県商工会議所連合会、福井商工会議所
◎共催 福井県環境・エネルギー懇話会
◎参加者 38名



若狭地域視察研修会

◎日時 平成25年2月27日(水)
◎場所 高浜町
◎内容 国民宿舎城山荘にて野瀬豊高浜町長の卓話
テーマ「立地地域からエネルギーを考える」
「若狭たかはまエドルらんど」見学
◎主催 福井県経済団体連合会、福井県商工会議所連合会
◎共催 福井県環境・エネルギー懇話会
◎参加者 27名



広報

新聞広報(意見広告)

◎テーマ 原子力および北陸新幹線に関する提言
◎掲載日 平成24年11月17日(土)、20日(火)
◎掲載紙 福井新聞 全15段
◎内容 JA福井県五連会長 山田俊臣氏と当会川田達男会長による原子力問題と北陸新幹線着工問題についての提言



会報E&E Reportの発行(vol.49号)

◎仕様 タブloid版6頁
◎内容 平成24年度の主な事業活動、取り組みについて掲載
◎発行日 平成25年3月31日



教育支援

第13回 エネルギー・環境教育セミナー〈放射線等に関する教育職員セミナー〉

(経済産業省資源エネルギー庁の受託事業)
◎主催 経済産業省 資源エネルギー庁
◎主管 福井県環境・エネルギー懇話会、公益財団法人 原子力安全研究協会、福井県教育委員会
◎後援 福井県教育委員会
◎日時 平成24年11月20日(火)
◎場所 福井商工会議所ビル コンベンションホール
◎内容 ①基調講演
演題:「暮らしに役立つ放射線～がんの診断・治療の最前線～」
講師:福井県立病院陽子線がん治療センター センター長 山本和高氏
②放射線の実験・実習 放射線の性質を理解するための霧箱作りや測定実験
進行:原子力安全研究協会
③ワークショップ(実践事例発表と意見交換)
発表校:西浦小学校(敦賀市)、川西小学校(福井市)
④総合講評 京都教育大学 教授 山下 宏文氏
◎参加者 県内小中高校教師及び関係者 61名



平田竹男氏講演会

◎日時会場 平成24年12月11日(火)明道中学校
平成24年12月12日(水)福井商業高校
◎演題 「国際人になるために」
◎講師 早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科 教授 平田竹男氏(元資源エネルギー庁石油・天然ガス課長・元日本サッカー協会専務理事)
◎主催 福井県環境・エネルギー懇話会
◎共催 福井県教育委員会
◎受講者 明道中学校 全校生徒540名、福井商業高校 全校生徒870名



環境・エネルギー教育問題懇談会

①日時 平成24年7月25日(水)
◎会場 福井商工会議所ビル 特別会議室
◎議題 環境・エネルギー教育支援事業について
第13回エネルギー・環境教育セミナーの企画について
◎出席者 委員14名
②日時 平成25年2月20日(水)
◎会場 福井商工会議所ビル 国際ホール
◎議題 第13回エネルギー・環境教育セミナーの開催結果について
次回セミナーの方向性について
◎出席者 委員8名

